

## 中学校音楽科 学習指導案の書き方例

〇〇〇〇学校〇年〇組〇名  
指導者 〇 〇 〇 〇

### 1 題材名 「〇〇〇を〇〇〇しよう」

- 題材名は、学習内容と活動が子どもたちにもはっきりとイメージできる名称が望ましい。
- 指導内容（いくつかのねらいをもった活動）のまとまりを表す単位で単元・主題・題材などがあるが、音楽科は「題材」が適切である。それは、表現と鑑賞の関連を図るためと学習内容が継続的につながるためである。

### 2 題材の目標

- この題材を通して育てたい力や身に付けさせたい力を観点別に具体的に記述する。
- この題材の中で扱う領域が、表現領域のみの場合は（１）（２）（３）  
鑑賞領域のみの場合は（１）（４）  
表現・鑑賞両方扱う場合は（１）（２）（３）（４）
- 文末は、児童生徒の立場から「～する」「～感じ取る」「～について思いや意図をもつ」「取り組む」等の表現で記述する。＊「～できる」は使わない。

### 3 題材設定の理由

- ・なぜこの題材を設定したのか（選択した理由）について、学習指導要領の内容との関連で述べる。
- ・題材のもつ価値や内容、意図するところを明確にする。
- ・題材に対する児童生徒の受け止め方や題材に関する学習する内容の現在の実態などを分析的に記述する。
- ・この題材による活動を通して、育てたい児童生徒の姿について記述する。
- ・題材の目標で示した力を育成するために、教師の願いや思い、指導の意図や見通しを明確に記述する。
- ・指導に当たり、どのような指導や支援の手立てをとるか（指導の工夫）を具体的に述べる。（このような場面で、このような方法で…）

#### 4 学習指導要領との関連

・学習指導要領の内容との関連について明記する。 (例：第1学年)	
A 表現 (1) 歌唱	ア 歌唱の内容や曲想を感じ取り，表現を工夫して歌うこと。 イ 曲種に応じた発声により，言葉の特性を生かして歌うこと。 ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り，表現を工夫しながら合わせて歌うこと。
(2) 器楽	ア 曲想を感じ取り，表現を工夫して演奏すること。 イ 楽器の特徴をとらえ，基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。 ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り，表現を工夫しながら合わせて演奏すること。
(3) 創作	ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り，表現を工夫して簡単な旋律をつくること。 イ 表現したいイメージをもち，音素材の特徴を感じ取り，反復，変化，対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。
B 鑑賞 (1)	ア 音楽を形づくっている要素や構造とのかかわりを感じ取って聴き，言葉で説明するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。 イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて，鑑賞すること。 ウ 我が国や郷土の暖冬音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り，鑑賞すること。
[共通事項] (1)	ア 音色，リズム，速度，旋律，強弱，形式，構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。 イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて，音楽活動を通して理解すること。

#### 5 教材

「○○○○○」

#### 6 題材の評価規準

・題材についての評価規準で，題材の目標を実現する学習活動等に応じて，学習状況を適切に評価することのできる評価規準を具体的に設定することが大切。

(参考例②)「A表現・器楽」「A表現・創作」を関連付けた題材

(中学校第1学年)

※国立教育政策研究所 「評価方法等の工夫改善のための参考資料」より

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>① 箏の音色や奏法に関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。(器楽)</p> <p>② 箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴に関心をもち、即興的に音を出しながら旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。(創作)</p>	<p>① 箏の音色、平調子による旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 (器楽と創作に共通)</p> <p>② 知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取って音楽表現を工夫しどのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている (創作)</p> <p>③ 知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を捉えた音楽表現を工夫し、自分がつくった旋律をどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (器楽)</p>	<p>① 箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。(器楽)</p> <p>② 箏の奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な、音の組合せ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。(創作)</p>

- ・「A表現」領域（歌唱，器楽，創作）の学習状況は、「音楽への関心・意欲・態度」，「音楽表現の創意工夫」，「音楽表現の技能」の三つの観点で評価をする。
- ・「B鑑賞」領域の学習状況は、「音楽への関心・意欲・態度」，「鑑賞の能力」の二つの観点で評価する。

## 7 指導と評価の計画

(参考例) (本時○/□時間)

時間		◎ねらい○学習内容・学習活動	◇評価規準 ◆ 評価方法
第 一 次	第 1 時	◎	◇  ◆観察法 【演奏聴取】
		○ ・ ・	

	第2時	◎ ○ ・	◇ ◆作品法 【ワークシート】	【創-②】
第 二 次	第3時	◎ ○ ・		【技-①】
		◎ ○ ・	◇	【技-②】
第 三 次	第5時	◎ ○ ・	◆	【関-②】 【創-③】

8 板書計画 本時終了時の板書のイメージを書いておく。

9 本時の学習指導

(1) 本時の目標

(2) 学習活動の展開と評価

- ・授業の流れを明快でわかりやすく，指導内容と学習活動，評価の観点と場面を明確にする。

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準 (評価方法)	共通事項
1	○○ *生徒主体の表記と記述 *活動やめあての確認について記す	*他の欄に記述できない内容と指導上の留意点	*「おおむね満足できる」と判断される状況 (B) を記述 *具体的評価規準 1～2  *本時の目標との整合性を図る	
指導者のねらいや生徒に身に付けさせたいこと				
【演奏聴取】 【ワークシート】				

○評価方法

- ・授業の実践段階での評価は、1単位時間に1つか2つの評価項目とできるだけ簡単な評価方法が負担にならず、指導も行き届く。(学習活動における具体的評価規準)
- ・AとCのみ(BとCのみ)を記録するなどして、評価に追われるような授業はさげたい。
- ・評価の方法には、活動の中で評価する方法や質問紙や書かれた作品等により評価する方法が考えられる。

聴取法	歌唱の聴取，演奏の聴取，録音
観察法	発言・態度・表情の観察，発表の観察，身体表現の観察，話し合いの観察，鑑賞態度の観察，録画，グループ活動の観察，活動・行動の観察
質問紙法	学習カードの利用，学習プリントの利用，鑑賞カードの利用
作品法	創作曲，報告書，レポート，ノートの提出，メモ，感想文・感想画の記入
面接法 (対話・会話)	教師と児童，児童同士
自己評価法 相互評価法	自己評価カードの利用 相互評価カードの利用

\* 自己評価は教師の評価に入れない

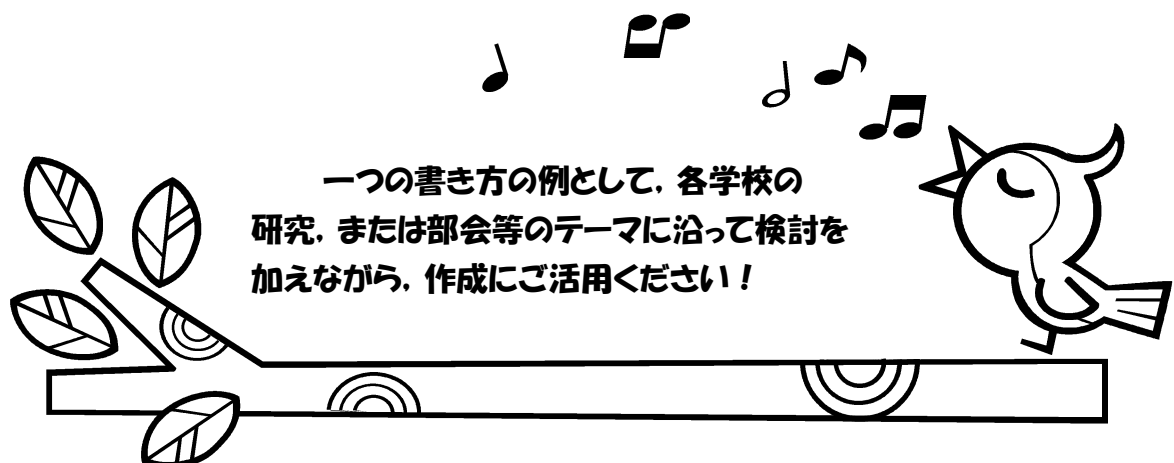
(4) 評価及び指導(手だて)

(A) と判断される具体的な状況	Aと判断するためのキーワード 生徒の高まった様子をイメージし2つくらいの状況例
(B) と判断される状況を実現するための指導(手だて)	Bにするための教師の指導の手だて 具体的手立て2つくらい

○(B)を実現している児童・生徒のうち、質的な高まりや深まりをもっていると判断される状況が「十分満足できる」(A)となります。(C)と判断される児童・生徒には、(B)になるためには、どのような指導が必要であるかを具体的に示すことが重要。

○手だての例

- ・本人の傍らに行き、ともに活動することで、本人の活動を引き出すようにする。
- ・周りで演奏している友達の音に注意を向けるようにし、一緒に練習する。
- ・上達していることを認め、ほめ、励ます。
- ・活動できる場面を意図的に設定し、わかりやすく説明して練習を手伝うようにする。
- ・本人が何気なくやっている演奏の中から工夫につながるものを教師が見つけ出し全体工夫の中に取り入れ、本人の意欲の喚起を促す。
- ・学習カードに何も書けない場合は、直接会話をしてその受け答えの中から、本人の気付いていることを明確にする。
- ・ことばのカードを活用させる。
- ・友だちの演奏中に私語をするなど、演奏者に迷惑をかけるような行為については目で注意を促したり、傍らに行って自分の行動に気付くようにしたりする。
- ・友だちの演奏を聴いて、よい面を発見できない場合は、自分の演奏と比べながら友だちのよさを見つけるようにアドバイスをする。



一つの書き方の例として、各学校の研究、または部会等のテーマに沿って検討を加えながら、作成にご活用ください！